

平成25年度 兵庫県立兵庫高等学校 学校評価票

年度目標	「質素剛健・自重自治」の具現化 ・文武両道を目指す ・キャリア教育の充実 ・マナーの向上
------	-------------------------------------------------------

※自己評価の評価基準 [5:よくできた 4:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった 0:判断材料に乏しく判断できない]

領域	評価の観点	評価項目	項目番号	実践目標	25年度自己評価						24年評価	本年度の成果と次年度への課題
					5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)	25年評価		
学校経営	開かれた学校づくり	保護者・卒業生・地域への情報発信	1	ホームページの更新を実施し、常に新しい情報の発信を心がける	8.9	44.4	24.4	6.7	13.3	3.3	3.4	・ホームページの更新ができていない部分があり、自己評価も若干ではあるが下がっている。引き続き組織的な取組を強める必要がある。 ・学年通信については、各学年とも定期的に発行されている。保護者からは、楽しみにしているという声と手元になかなか届かないという声があり、情報の確実な伝達についても工夫する必要がある。
			2	学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える	40.0	46.7	6.7	0.0	6.7	4.3	4.4	
		学校紹介の推進	3	中学校訪問を実施し情報交換を行うとともに、広報活動をする	15.6	66.7	4.4	2.2	11.1	4.0	4.3	・昨年度に引き続き、校長以下職員をあげて中学校訪問を行った。特に、平成26年度から改編される「未来創造コース」についての情報提供に力を注いだ。 ・本校の取り組みについては中学校から高く評価されているが、コースの選抜方法の変更(適性検査の実施)や学級増による募集定員増の影響が志願倍率は若干低下した。
			4	学校説明会・オープンハイスクールにおいて学校の概要説明、在校生との交流、授業見学、部活動見学を通じて、本校の特色を理解してもらう	22.2	68.9	2.2	0.0	6.7	4.2	4.6	
	教職員の資質向上	情報機器の活用の推進と能力の向上	5	ファイルサーバーによって文書を共有化し、管理を徹底する	4.4	62.2	24.4	2.2	6.7	3.5	3.7	・共有フォルダーの活用は定着してきているが、不要なファイルが残っていたり、フォルダーの管理が統一的でないといった指摘がある。フォルダーの管理についてのルール整備が必要である。 ・今年度は学年会議を時間割内に設定したので会議設定がスムーズに行えるようになった。研究授業や公開授業の一層の充実についても検討する必要がある。
			6	各種委員会(人権、教育相談、情報など)や研究授業を実施する	4.4	48.9	33.3	8.9	4.4	3.1	3.4	
	危機管理体制の整備	防災教育研修会の実施	7	「地震防災・危機管理マニュアル」にそって危機管理体制を整備し、職員の共通認識を深める	2.2	35.6	35.6	15.6	11.1	2.7	3.5	・4月の地震で講堂の吊り天井が一部破損し緊急復旧工事を行ったこともあり、危機管理・防災マニュアルの再点検の意識が高まっている。危機管理体制の見直しを行い、防災教育の一層の充実を図っていく必要がある。
		学校管理下の事故に対する体制の徹底	8	防災避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルの徹底を図る	11.1	46.7	24.4	4.4	11.1	3.4	3.9	
	適正な予算執行	経理事務の厳正化	9	予算執行の適正化を図るため、複数人によるチェック体制を確立する。(H24複数の監査体制を確立し、予算請求のマニュアルを整備する)	0.0	44.4	15.6	0.0	37.8	3.5	3.8	・「限られた予算を有効に使う」という意識は確実に定着しており、必要に応じて教室の冷房を稼働しつつも、デマンド管理は生徒・教職員の協力により適切に実施できている。
			10	光熱水費等の経費節減に努める	20.0	60.0	6.7	0.0	13.3	4.1	4.4	
教育課程	学習指導	主体的・積極的な学習態度の育成	11	授業における到達目標を明確にし、生徒の主体性を高めるような学習指導を行う	13.3	57.8	15.6	0.0	8.9	3.8	4.0	・生徒の塾依存率が高まっているのではないかと感じている教員が増えている。「授業と自学自習を中心に主体的に学習する」ことを生徒にしっかり指導するとともに、授業の一層の充実を図っていく必要がある。 ・学校設定教科「創造」の各科目において充実した授業が展開されており、各方面から高い評価も受けている。 ・土曜自習教室は一定の定着を見ているが、参加生徒の減少という課題もあり、一層の充実方策の検討が必要である。
			12	必要に応じて適切な課題を与え、家庭学習の充実を図る	17.8	57.8	8.9	0.0	8.9	4.0	4.1	
			13	土曜自習教室及び長期休業中の補講授業を充実させる	11.1	60.0	17.8	4.4	4.4	3.6	3.7	
		効果的な学習	14	生徒の実態に応じた効果的な授業展開を図る	20.0	60.0	11.1	0.0	6.7	4.0	4.0	・各教科において、考査結果等も踏まえ生徒の実態に応じ工夫された授業に取り組んでいるが、考査結果の分析や共有については時間の制約もあり不十分な部分も見られる。 ・成績処理システムの改善については、今年度は評価の在り方についての議論を中心に行ってきたため手つかずであった。次年度から改正された評価方法が実施されるので、新しい評価の処理システムの開発の中で現状の課題の解決を図っていく必要がある。
			15	考査結果を分析・評価し、その結果を教師間で共有して授業改善に役立てる	6.7	44.4	31.1	6.7	6.7	3.2	3.6	
			16	考査結果を面談等の資料として生徒と共有し、学習指導改善の材料とする	8.9	53.3	20.0	2.2	11.1	3.6	3.8	
			17	成績管理システムの改善を図る(評価ソフトの見直しと開発)	2.2	24.4	28.9	22.2	15.6	2.4	2.0	
	生徒指導四綱領「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導	モラルとマナーの向上	18	HR、集会(全校・学年)を通して、社会の一員としてのマナーを身につけさせる	4.4	66.7	24.4	2.2	2.2	3.5	3.8	・自重自治を実践させるための「自由」と一定の「規律」の相克は本校の指導体制の宿命でもある。その中であって、自覚を促す指導、自立を促す指導に地道に取り組むとともに、通学状況など地域住民の理解を得るための努力を続ける必要がある。
			19	登下校指導を通して、通学マナーを徹底させることを学校全体として行う	8.9	71.1	13.3	4.4	2.2	3.7	3.6	
		学校行事を通しての人間形成	20	様々な学校行事を通して生徒のリーダー性を育てる	24.4	55.6	13.3	0.0	2.2	4.0	4.4	・様々な行事が生徒自身の手によって企画・運営されている。その中で、生徒たちは自分の役割を果たし、リーダー性を育てている。
進路指導	進路の探求	21	保護者や卒業生を講師としてキャリアサポーターから話を聞く会等を通して、生徒の職業観を育成する。	20.0	68.9	0.0	0.0	11.1	4.2	4.3	・1年生対象の「キャリアサポーターから話を聞く会」、「神戸大学キャンパストライアル」、2年生対象の「出張講義」をはじめ、「東京みらいフロンティアツアー」、研究室訪問など、生徒の進路意識を高める体系的なキャリア教育の体制が整ってきた。引き続きこの取組の内容の充実を図るとともに学習指導へ波及させる手だてを考えていく必要がある。 ・進路情報の提供については、「進路の手引き」をはじめ多様な情報が進路指導部から提供されているが、「どのような情報を」、「どのような場面で」提示するのが効果的か、学校全体で共有できるよう取り組んでいく必要がある。	
		22	キャンパストライアル(神戸大学)、出張講義等を通して、生徒の大学・学部・学科に対する理解を深める。	20.0	71.1	0.0	0.0	8.9	4.2	4.3		
		23	多様な進路情報を提供することによって各学年と連携を図り、生徒や保護者との面談を充実させる。	11.1	53.3	15.6	4.4	13.3	3.6	4.0		
		24	東京みらいフロンティアツアーや研究室訪問、インターシップ事業等に積極的に参加させ、生徒の進路意識の向上を図る。	24.4	60.0	4.4	0.0	8.9	4.2	4.4		
特色ある教育課程の充実	教育課程の検討	25	生徒の現状に適した教育課程の編成を図る	2.2	73.3	8.9	0.0	11.1	3.8	3.9	・新学習指導要領での教育課程による授業が進み出し、引き続き、教育課程特例校制度による特色ある教育課程について、実施状況やその成果を確認しながら、工夫改善に取り組むことが求められている。	
	総合科学類型の学校設定科目の充実を図る	26	総合科学類型委員会を機能させ共通理解を図る	8.9	62.2	13.3	0.0	13.3	3.8	3.8	・類型での取組は県教育委員会だけでなく文部科学省からも評価を受けている。「教育課程特例校」、「中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究事業」の取組を含め、類型委員会を中心にこれまで以上に研究・実践を深めていく。	

領域	評価の観点	評価項目	項目番号	実践目標	25年度自己評価						24年評価	本年度の成果と次年度への課題	
					5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)	25年評価			
課題教育	保健・安全教育の充実	生徒・教職員の主体的な健康づくり	27	保健指導プリント・保健ジャーナル等を発行し、心身の健康の自己管理能力の向上を図る	13.3	64.4	11.1	0.0	8.9	3.9	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員による「保健ジャーナル」の発行等により、生徒の公衆衛生、健康管理についての意識を啓発した。 ・キャンパスカウンセラーが昨年途中から週1回へと配置増になり、多くの生徒、保護者が利用するようになってきた。そのことにより、悩みを抱える生徒によりきめ細かく対応することができた。 	
			28	保健環境部からの情報発信や、保健指導を通じて、生徒の公衆衛生に対する意識の向上を図る	4.4	60.0	22.2	0.0	11.1	3.5	4.1		
			29	学校医健康相談・キャンパスカウンセリングの積極的な活用を推進する	8.9	64.4	11.1	4.4	11.1	3.7	3.2		
		生徒の事故対策指導	30	運動部生徒への安全講習会(6月)を実施する	13.3	60.0	8.9	2.2	13.3	3.9	4.2		<ul style="list-style-type: none"> ・安全講習会や心肺蘇生法講習会等は計画的に実施できた。また、熱中等等の不具合も幸いほとんど発生しなかった。一方、部活動等学校管理下の怪我等による学校安全会の給付は例年通り高水準であった。これは、限られた時間で精一杯全力で練習しようとする生徒と、小さな怪我でも医師の治療を受けさせていただける保護者の対応による部分も大きい。
			31	外部団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する	17.8	55.6	8.9	0.0	13.3	4.0	4.3		
		人権教育の充実	人権意識を育てる	32	人権に関するHRを年1回以上実施し、命の大切さや人を思いやる心を育てる	6.7	77.8	4.4	0.0	6.7	4.0		4.1
	33			講演会や映画鑑賞会を実施し、人権尊重の精神を高める	17.8	71.1	0.0	4.4	4.4	4.0	4.1		
	国際理解教育の充実	自国や外国の歴史・文化の理解	34	インターナショナルデーを生徒主体で企画・開催する	20.0	60.0	6.7	0.0	11.1	4.1	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、事情により松江二中の本校訪問と本校生の松江二中訪問が同一年度に重なった。受け入れは7月であったため文化ホールを利用した。経費的に厳しかったが、内容的には充実したものとすることができた。また、訪中団も19名の参加と多くの生徒が積極的に参加してくれたが、男子の参加が少なく、男子の積極的な参加を促したい。 	
			35	松江二中との友好的な交流を推進する	17.8	71.1	4.4	2.2	4.4	4.0	3.5		
	清潔で快適な学習環境の維持	学校美化・衛生意識の向上	36	床磨き・ワックスがけ・モップによる特別清掃や、通学路を中心に学校周辺の清掃を年3回実施する	17.8	60.0	13.3	0.0	4.4	3.9	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校美化、学校安全についての評価は昨年よりも低下している。この理由には、4月の地震における講堂吊り天井の破損や昨年度に評価が高くなった反動が考えられるが、生徒が落ち着いて学習する環境作りの観点からも、校内の一層の美化、安全の確保に取り組んで行く必要がある。 ・ゴミの分別についても学校美化と同様の傾向がある。地球環境の問題だけでなく、経費削減の観点からも引き続き取組を強めていく必要がある。 	
			37	整美委員を中心にクリーンアップ週間などで校内美化を啓発する	6.7	26.7	44.4	13.3	6.7	2.7	3.7		
			38	施設・設備の点検と安全を図る	4.4	46.7	31.1	8.9	6.7	3.1	3.7		
			39	ゴミの分別を徹底し、ゴミの資源化を図る	6.7	48.9	35.6	4.4	4.4	3.2	3.7		
	図書室の積極的活用	図書室の充実	40	クラス読書会、PTAも参加しての全校読書会を充実させる	8.9	68.9	13.3	0.0	6.7	3.8	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・読書会については、担当任せで学校全体への周知が不十分なところがある。読書会用の図書購入などにより内容の充実を図るとともに、職員への周知にも工夫をする必要がある。 ・学校予算削減のおおりで図書購入費が十分確保できていないのが実情である。外部資金の導入など図書充実のための工夫が必要である。 	
41			図書を充実させ、環境を整備する	8.9	60.0	11.1	0.0	15.6	3.8	4.1			

学校関係者評価

評価の観点	主な意見	評価のまとめ
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問、学校説明会など全職員で一丸となって取り組んでいる。 ・学年通信が保護者に届くように生徒を指導してほしい。 ・メールによる配信も検討してほしい。 ・HPから まだまだ兵庫高校の魅力が伝わりにくい。 ・HPの写真・音楽利用に工夫の余地がある。 ・HPの更新に学年間のバラツキがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信、中学校訪問と学校説明会・オープンハイスクール等の開かれた学校づくりの活動は、全職員一丸となって順調に成果を上げている。 ・今後も、校長のリーダーシップの下、ホームページの更新体制の確立に努めながら、取り組みの継続と更なる内容の改善・充実を期待します。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・出張講義、出前講座など生徒の進路意識を高める取り組みは素晴らしい。 ・社会人の話を聞かせる活動や 実社会の様子を見せる活動をできるだけ増やしてほしい。 ・塾・予備校などの悪影響はないか、夏期講習に意欲的に参加する対策を立ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜自習教室や長期休業中の補習授業、生徒や保護者との進路面談など進路指導も充実している。 ・「キャリアサポーターから話を聞く会」「キャンパストライアル」などによる職業観の育成、進路意識の向上などの取り組みでも大きな成果を上げている。更なる改善・充実を期待します。
特色ある教育課程の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生鉄人化まつり」を開催できることは素晴らしい。 ・諸計画の実施には経費がかかるが経費捻出の工夫よくしている。 ・特色ある教育課程の対応が総合学科類型中心になっていないか。 ・成果の出た指導をうまく伝承してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科学類型は、顕著な実績を上げ、未来創造コースへと姿を変え、より内容のある発展を遂げた。 ・今後も未来創造コースを核として全体の教育課程の充実に取り組み、更なる教育の成果を期待します。 ・その活発な活動が、類型・コースのみにとどまらず、学校全体としての教育活動に波及した影響を期待します。その成果を生徒全体で共有できるように。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全校読書会は素晴らしい活動。図書購入費捻出し更なる充実を。 ・伝統の兵庫高校と新しい兵庫高校の推進を。 ・武陽会(同窓会)の十分な活用を。 	